

シマムセンオーディオ試聴会 (2024.10.20)

—Thorens 新製品—

1. はじめに

シマムセン CYMA で開催された Thorens 新製品の試聴会に行ってきました。

2. 開催要項と使用機器

開催要項は下記のとおりで、10月20日(日) 13:00~14:30 のプログラムに参加しました。

THORENS 新製品 試聴会



THORENS / TD 124 DD

10/19(土)
第一部 13:00~14:30
第二部 15:30~17:00

※10/19の両講演はオーディオ評論家の小原 由夫先生に講師としてご参加いただきます



THORENS / TD 1500

10/20(日)
第一部 13:00~14:30

※10/20の講演は輸入代理店担当が担当いたします

会場：CYMA 2F試聴室
講師：10/19 小原 由夫先生
10/20 輸入代理店担当者

シマムセンホームページにてご予約を受け付けております



スケジュールと使用機器は以下のとおりです。

日時

2024年10月19日(土)

第一部 13:00~14:30

THORENS のレコードプレーヤーを中心とした試聴会を行います。

オーディオ評論家の小原由夫先生に講演いただきます。

第二部 15:30~17:00

THORENS のレコードプレーヤーを中心とした試聴会を行います。

オーディオ評論家の小原由夫先生に講演いただきます。

2024年10月20日(日)

第一部 13:00~14:30

THORENS のレコードプレーヤーを中心とした試聴会を行います。

輸入代理店担当が講演いたします。

【使用機材】

◇第一部と第二部共通

	(メーカー/機種)	(税込み定価)
[レコードプレーヤー]	THORENS / TD124DD	(¥1,980,000)
	THORENS / TD1500	(¥495,000)
[プリアンプ]	Accuphase / C-3900	(¥2,200,000)
[パワーアンプ]	Accuphase / A-300	(¥2,970,000)
[フォノイコライザー]	Accuphase / C-47	(¥715,000)
[スピーカー]	Paradigm / PERSONA7F	(¥5,280,000)

3. 試聴会の経過



当日のセッティング



TD124DD



TD1601

今回紹介された新製品は TD124DD と、予告では TD1500 となっていました。準備の都合上 TD1601 に代わっていました。なお、TD1500 は、シママセン訪問記 (2024.10.18) で試聴済です。

<https://pdn.co.jp/thorens/td1500.html>

<https://www.phileweb.com/news/audio/202410/16/25828.html>

試聴は、THORENS 復活の経緯や TD124DD と TD1601 の設計、製造の解説を挟みながら進行了。特に TD124DD はダイレクトドライブでありながら、定速に達

した後は、トルクを弱め、イナーシャで回転させることにより滑らかな回転を得ていること、新設計のアームもラテラルバランスやアジマス調整が容易であることなどが特徴で、電源は分離型です。

TD1601の方はベルトドライブでサブシャーシ分離を行い、スプリングで浮かす構造になっていること、水平調整が容易なこと、ベルトによるプラッターの傾きを修正することなどが特徴です。

試聴はカートリッジのプラタナス 3.0S を装着した TD124DD のバランスアウトで始まりました。フォノイコライザーのアキュフェーズ C-47 のバランスアウトは、ずっとデフォルトの3番ホットのままのようです。

最初に女性ボーカル、ついでエレキギターと男性ボーカルがかかりましたが、スピーカーの個性もあり、クリアーでディテールの表現に富んだ昨今のハイエンド調の音でした。最近の録音で、過度の広がり感がありますが、リバーブが深くかかっているようで定位を云々するような作りではなさそうです。

次にフリッツ・ライナー指揮シカゴ交響楽団のシェラザードの RCA 盤がかかりました。定位は問題なさそうですが、鮮度感はあるもののエッジが効きすぎた音で、おそらく Columbia カーブにすれば印象は変わってくると感じました。

引き続き、ジャズの Riverside 盤とバルバラのシャンソンのフランスフィリップス盤がかかりましたが、定位は問題ないものの、おそらく前者は Columbia カーブ、後者は TELDEC カーブにすれば、印象は変わってくると感じました。

シンドラーのリストは最近の録音のようで、ムターのヴァイオリンは、自然な表現です。おそらく RIAA カーブだと思います。3番ホットでもさほど違和感はありませんが、2番ホットにしてみたいところはあります。

ここでプレイヤーが、カートリッジのプラタナス 3.0S を装着した TD1601 のバランスアウトに替わり、女性ボーカルの 45 回転盤がかかりましたが、デモの最初の1番目と2番目の盤と同じような印象でした。

次のショルティ指揮ウーフィルのシューベルトの交響曲9番《グレート》の DECCA 盤では、位相は問題ないものの、バランス的にはイコライザーカーブは DECCA カーブにしてみたいところです。

最後に、ジャズと男性ボーカルの入ったロック調がかかってお開きとなりました。参加者の希望で最後の曲を TD124DD に戻して聴かせてほしいとの要望がでましたが、TD1601 からの音質向上はそれほど顕著ではなく、逆に低価格の TD1601 のコストパフォーマンスの良さが分りました。

4. まとめ

TD124DD と TD1601 ともによく考えられて設計されており、伝統を踏まえつつ THORENS のプレイヤーの新しいかたちが追求されており、特に後者はコストパー

パフォーマンスが高いように感じました。

スピーカーや駆動系も含めて、全般的に昨今のハイエンド調の音で、イコライザー特性にはこだわらないデモに終始し、せっかくバランス接続を行い、アキュフェーズのC-47で受けながら、レーベルや録音年代に応じて位相反転を行わなかったのは残念でした。

以上